

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

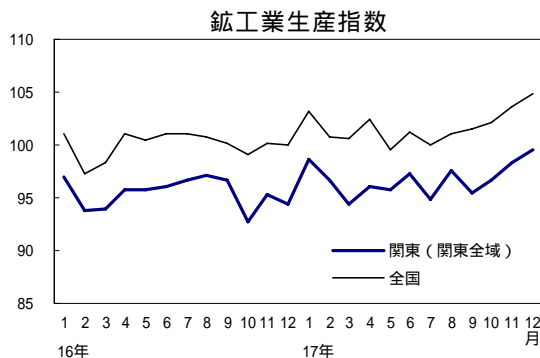
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 17 年 11 月)	今回 (平成 18 年 2 月)	
景況判断	緩やかに回復している	回復している	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
個人消費	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	
雇用情勢	改善	着実に改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、半導体製造装置が海外向けに、フラットパネルディスプレイ製造装置が国内外向けに堅調であったことから、4 四半期連続で増加した。化学は、石油化学品製造用触媒が海外向けに伸びたことなどにより、引き続き堅調で横ばいとなった。輸送機械は、排出ガスの新長期規制施行の影響もあり普通トラックが伸びたことなどから、3 四半期ぶりに増加した。情報通信機械は、新製品の発売に向けて携帯電話が伸びたことにより、3 四半期ぶりに増加した。電気機械は、半導体・IC測定器が海外向けに堅調であったことなどにより、3 四半期連続で上昇した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年12月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

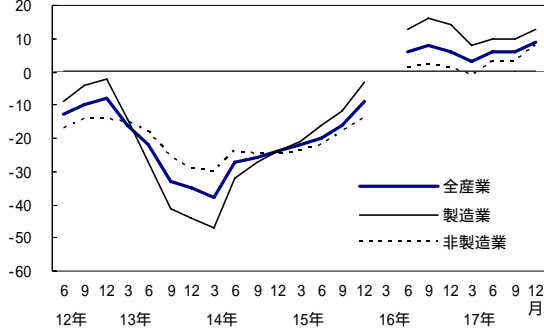
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	13.8	1.1	2.8	4.9	0.0
化学	13.7	0.0	0.0	0.3	2.4
輸送機械	11.3	9.7	1.9	4.8	10.1
情報通信機械	8.6	5.9	13.8	5.1	12.0
電気機械	7.9	2.5	3.1	2.5	7.1
鉱工業	100.0	0.3	2.3	3.1	0.1

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 10~12月期の化学の生産、出荷については、10月、11月確報値の平均より算出。在庫については、11月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

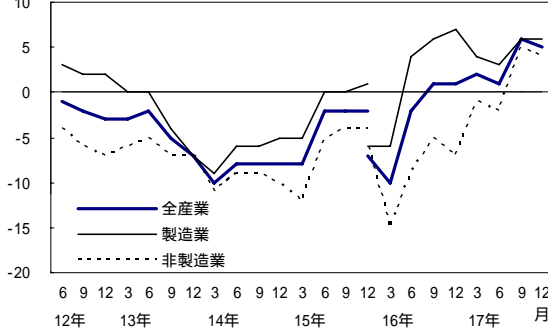
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
関東全域(新潟県を含む)

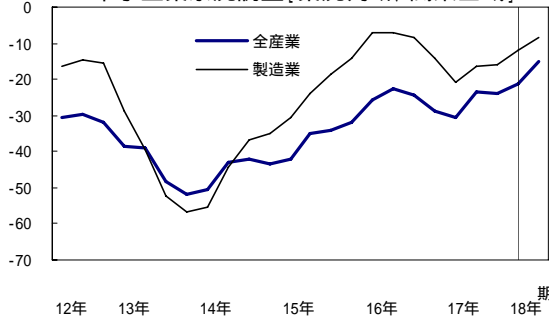
(%ポイント)企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「小売店では正月は売れたというが、卸段階では商品は動いていない。1月後半に都内で行った展示会の売上は前年を超え、多少の明るさはみえる(その他製造業[宝石・貴金属])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

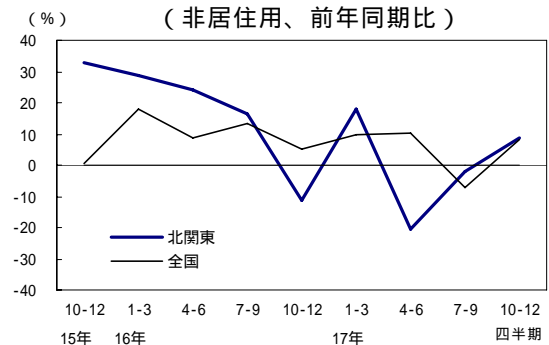
企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	18.5	12.5(3.7)
製造業	22.8	3.7(5.5)
非製造業	11.5	42.1(17.9)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

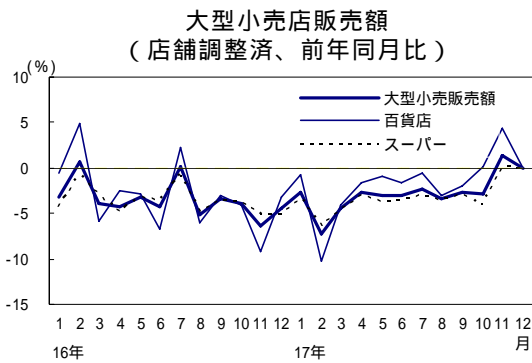
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、気温が高めに推移したことから季節衣料の動きが鈍かったが、催事効果等により身の回り品等に動きがみられたことから、15か月ぶりに前年を上回った。11月は、気温の低下により冬物衣料が好調に推移したことに加え、催事効果等により身の回り品等にも動きがみられたことから、2か月連続で前年を上回った。12月は、記録的な寒波により防寒衣料等が好調に推移したことなどにより、前年と同水準となった。

スーパーは、11月以降の気温の低下により冬物衣料や暖房器具等の家庭用品に動きがみられたが、期を通じて主力の飲食料品が伸び悩んだことから、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

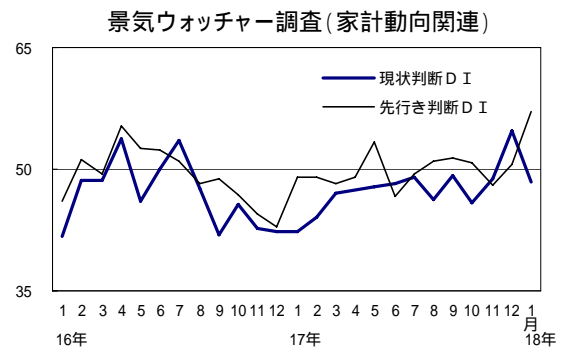
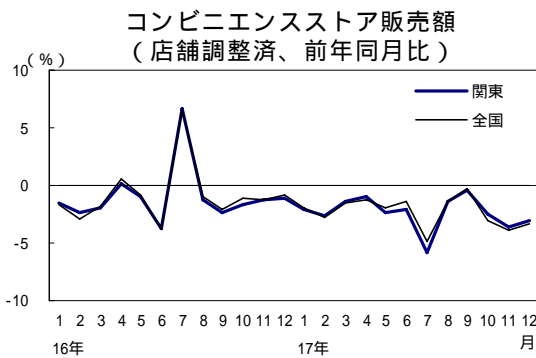
「福袋は前年比105%で用意したが、昨年より早く完売した。防寒衣料、暖房用品は引き続き好調である。野菜高騰で消費意欲が減退、1点単価は上昇、買上点数は下落した。晴れの日への支出は惜しみないが、普段は節約志向がうかがえる(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	4.7	2.9	2.8	0.5
百貨店	4.7	1.4	1.7	1.3
スーパー	4.7	3.4	3.2	1.2
コンビニ	2.1	1.8	2.6	3.0
景気ウォッチャー	44.4	47.8	48.2	49.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。17年10-12月期は速報値。コンビニは関東全域。

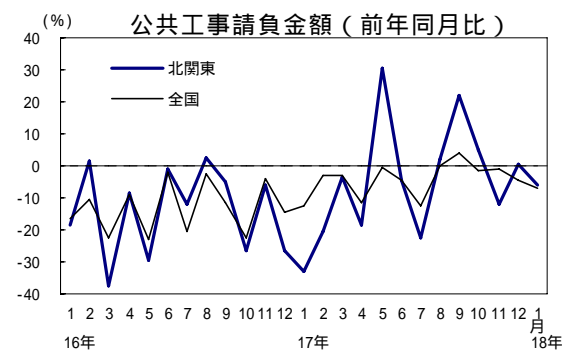
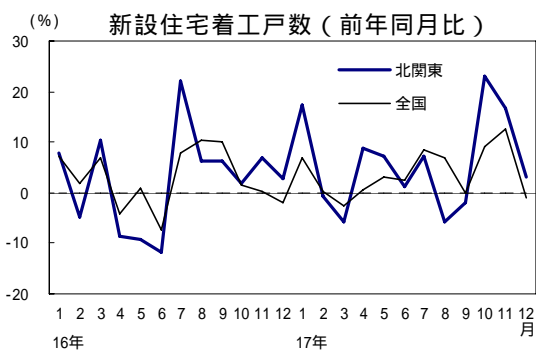
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

分譲、貸家、持家が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

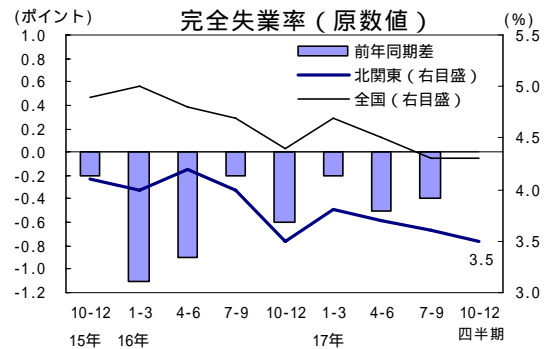
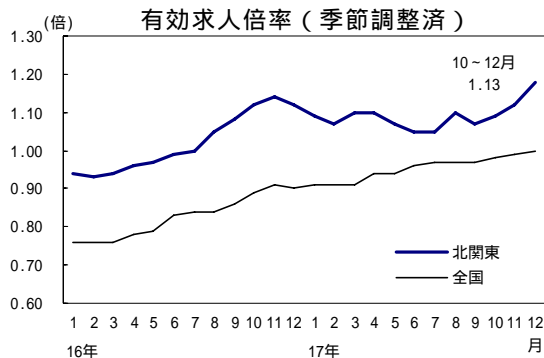


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

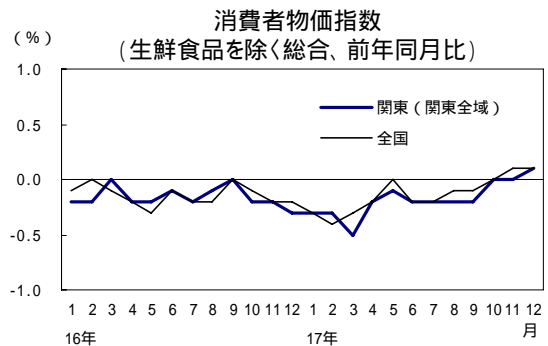
「新規求職者数は1,500人を下回り、過去1年間で最低の数字を示し減少傾向に大きな変化はみられない。有効求職者数は、新規求職者数の減少にもかかわらず、3か月連続前年比で増加しており、早期就職を希望しながらも雇用形態、労働条件等のミスマッチで就職までに時間を掛けざるを得ない状況がうかがえる（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	18年1月
倒産件数	165	166	150	158	57
(前年比)	6.3	6.4	7.1	1.3	3.6
負債総額	1,007	883	760	1,000	366
(前年比)	30.2	44.1	24.4	3.4	11.7



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・正月の初売りは来客数も多く、売上が非常に伸びた。寒さが厳しいため、衣料品や季節品の売上も好調である（百貨店）。

<先行き>

・市町村合併や当地への鉄道乗り入れ等があり、大幅な客数増を期待している（観光型ホテル）。

景気ウォッチャー調査（家計動向関連）

